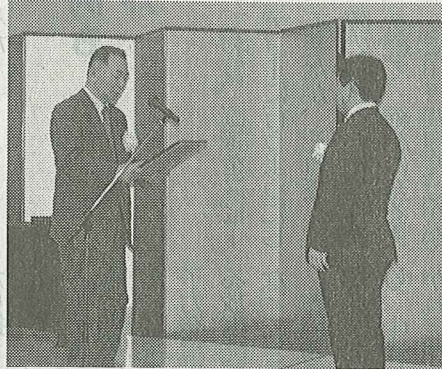


リサイクル分野で功労賞など

(社)石膏ボード工業会 第35回通常総会を開催

(社)石膏ボード工業会(須藤永一郎会長)は6月10日、都内で第35回通常総会を開催した。須藤会長は「2011年度の当初見込みは明るかったが、震災の影響を受けて、原材料や電力面の問題が浮上した。震災では津波の被害が甚大だった。この問題に対し、われわれの建材業界もいかに克服していくかが大事だ」と述べた。また、義援金を日本赤十字社に寄付したことを明らかにした。

総会に合わせて第33回石膏ボード賞授賞式が行われた。授賞式では榎本敬大氏(国土交通省国土技術政策総合研究所)が特別功労賞、笠井賢二氏(吉野石膏)が功労賞、藤田巧氏(チヨダウーテ)が技術賞をそれぞれ受賞した。榎本氏は独建築研究所が実施したプロジェクト研究「木造建築物の再資源化・資源循環化技術の開発」において木造住宅の分別解体に関する研究を行い、石膏ボードの排出量予測、分別の可能性を検討した。笠井氏は技術委員会・廃石膏ボード対策専門委員会委員長として、新JIS移行や厚手石膏ボードの普及促進、廃石膏ボードリサイクルを推進。藤田氏は電磁波吸収石膏ボードや吸放湿石膏ボードなどの付加価値付与製品の開発、フッ素不溶化技術など、廃石膏リサイクル化の課題に関する研究・実用化などの功績が評価された。



特別功労賞を受ける榎本敬大氏

された。